発行日2023 年 10月 17日

＊イフパット だより＊

～農民参加なくして農業なし～

第33号

ベトナム、マダガスカルそしてパナマの話

ベトナム草の根：農村観光の一翼を担うタイ族の民族舞踊
練習の成果を披露（写真４　本文P4）

目次

・P ２　ベトナムの草の根技術協力とタイ民族　会長　櫻井　文海
・P ４　草の根技術協力案件形成のための情報収集
（マダガスカルでの情報収集　）　研究員　積　奈津子
・P ６　パナマの奥地で芽生えた家族の自信　理事・主任研究員　和田　彩矢子

NPO法人 国際農民参加型技術ネットワーク
NPO-IFPaT International Farmers Participation Technical Net-work

ベトナムの草の根技術協力とタイ民族

会長　櫻井　文海

今回のイフパットだよりでは、ベトナム社会主義共和国、特に私たちNPOイフパットがJICAの草の根技術協力プロジェクトを実施しているベトナムの西北部のソンラ省ソンラ市チェンアン区ボー村のタイ族（少数民族）について説明します。（図1参照）

2019年のベトナム国の人口は約8,208万5,984人で、キン民族、ヌン民族、タイ民族など54民族からなります。キン民族はベトナム国の人口の85%　以上を占めています。残りの15%が少数民族と呼ばれます。これらの少数派はベトナム国全土、北部、中部、南部に散在する形で住んでいます。ベトナムの少数民族であるタイ民族も、東南アジアに多く住むタイ民族グループの1つであり、中国南部に起源を持ち、南に移住して来た人々です。（図１）

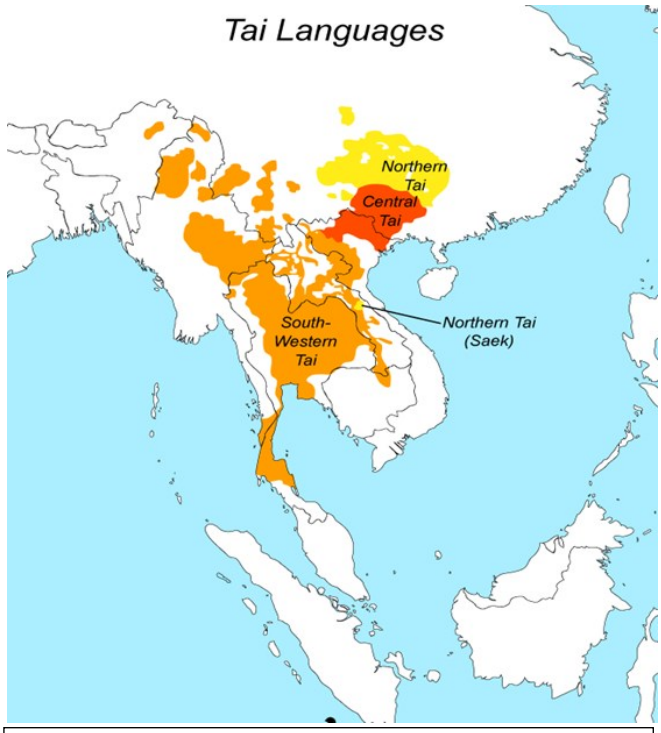

図1　言語系統で分けた現在のタイ民族分布（画像Wikipediaより）

デビッド・ワイアット著『タイ：短い歴史』によると、タイ民族の起源は中国南部であり、チワン民族、タイ民族、ヌン民族などの現代の少数民族と同じ起源を持っています。 北の漢人と東のベトナム人の圧力を受けて、タイ民族は徐々に南と南西に移住しました。ベトナムには7から13世紀にかけて移住してきました。当時の彼らの中心はソンラ省から西へ約２００キロ離れたラオス国境に近いディエンビエンフー（ムオンタン）です。（図2）

図２　ソンラ省「赤色の地域」とディエンビエンフー（画像Wikipediaを一部修正）

ベトナムの歴史書に出てくるタイ民族を見てみます。 トラン王朝時代の1466年、王朝はムオンヌオック（ラ川）とマンヴオン峠（カットハン峠）を攻撃し、三宮殿を築きました。タイ民族の指導者はサブクリエーターと呼ばれ、特定の領土を統治し、その地域の貴族になることが許可されています。また、フランス統治時代の1880年、フランス副領事オーギュスト・パヴィはベトナム法廷を代表して、タイ族のデオ・ヴァン・トリ氏にディエンビエン総督の世襲職を授与しました。 フランスがベトナム、中国、ラオスの国境地帯を決定するのを支援した後、デオ・ヴァン・トリ氏はライチャウのマンダリンに任命され、ディエンビエンフーからフオントーに至る広大な領土を統治することになります。

1948年3月、この領土はフランスによってタイ民族の自治連邦に再編され、タイ語を話すすべての民族がベトミンと戦うために集結させられました。 ベトミンによるディエンビエンフーの勝利後、ベトミン政府は北部の少数民族の心を掴むため、1955年4月29日にタイメオ自治区、タイヌン自治区、ラオス自治区など、少数民族の自治区を設立しました。しかし、これらの地域はすべて 1975 年に解消されています。現在もディエンビエンフー市住民の中ではタイ族が最も多くなっています。ベトナム全土で多数派を占めるキン族をはじめ、モン族やシラ族などの少数民族は、合わせても3分の1程度です。1999年の国勢調査によると、ベトナム国のタイ少数民族の人口は1,328,725人で、主にライチャウ省、ディエンビエン省、ラオカイ省、イェンバイ省、ソンラ省、ホアビン省に集中しています。

草の根技靴協力を実施するソンラ省はベトナム北西部に位置する14,055km2の地域で、1,820,950人口はキン族、ミャオ族、タイ族、モン族、ヤオ族から成り立ちます。ソンラ省、ソンラ市は4区からなり、その一つチェンアン区はさらに4グループに分かれ、グループ４のボー村においてJICA草の根技術協力プロジェクトが実施されています。

ソンラ省のタイ民族人口は 669,265 人で、省人口の 53.2%、ベトナム全土の タイ民族の36.9%がソンラ省に住んでいます。ボー村のタイ民族の人口は 1,195 人です。 ボー村は総面積が735ヘクタールで、人々の生活は主に農業生産に依存しています。(ソンラ省の統計)

本プロジェクトは村の開発をソンラ省の行政機関や研究機関が指導をし、JICA草の根技術協力プロジェクトとして提案機関の茨城県笠間市と実施機関の私どもNPOイフパットの協力によって開始されています。（イフパットだより第27ご号「JICA草の根技術協力プロジェクト始まる」及び31号「ベトナム草の根技術協力の現地活動始まる」を参照）

タイ民族の人々は、柔らかい動きながら挑発的な伝統的ダンスやバンブーダンスでも有名です。また、酸っぱいタケノコ、ディップソース、ピンポップフィッシュなどのユニークな調理法を使用した料理もあります。 ボー村のタイ民族舞踊チームは指導者を呼んで練習を重ね、すでにいくつかの催しでその成果の披露をしています。

下の（写真４）はタイ民族の伝統的な舞踊チームのデモンストレーション、（写真５）は民族衣装服及び（写真６）はタイ民族の伝統的な料理です。

写真1. 伝統タイ民族民謡や楽器の練習

写真２ 円錐形の帽子のダンスの練習

写真３ 伝統的な扇子踊りの練習

写真４．民族舞踊の練習結果をプロジェクト管理委員会に披露　（表紙の写真参照）

写真５　タイ民族の伝統な衣服

写真６　タイ民族の伝統な料理

草の根技術協力案件形成のための情報収集

―マダガスカルにおける生活改善アプローチを用いた栄養改善―

研究員　積　奈津子

草の根技術協力プロジェクト実施の可能性調査および案件形成のための情報収集を目的として、2023年6月にイフパットの自主事業としてマダガスカル（以下、マ国）に渡航してきた。本機会では、渡航に至る経緯および調査の報告を行う。

イフパットが受託しているJICA課題別研修「マルチセクターで取り組む食を通じた栄養改善（旧名農業を通じた栄養改善）」では、人々の行動変容を促す手法として、生活改善アプローチを研修コンテンツに導入している。栄養改善は日々の生活習慣と大きく関わっている分野であることから、住民自身による課題解決という意識醸成・行動変容を重視していく本アプローチは、帰国研修員や他ドナーからも好評であり、少しずつその実施がアフリカ各国で見られている。（イフパット便りの読者であれば既知の事実かとは思うが、）中南米を対象とした課題別研修や、コスタリカ・エルサルバドルの草の根技術協力プロジェクトでもその手法として活用され、JICAとともにイフパットの知見を溜めてきたアプローチである。

マ国は5歳未満児の慢性栄養不良（月齢に対して身長が低いこども）の割合が39.8%、世界で10番目に高い値ということもあり、栄養改善は国家的課題である。前述の研修にも継続的に研修員が参加しているが、2022年度には中央高地に位置するアムルニマニア県から2名の準高級レベルの研修員が参加した。この2名の研修員は、生活改善アプローチの有用性を感じ、自国に帰ってカウンターパートとなっているプロジェクトや自組織にアプローチについて早速共有する他、研修で学んだ「自分にとって幸せを考える幸せツリー」、学生を巻き込んで「コミュニティや家庭の状況を調査しマッピング化する環境点検」といった現状分析ワークショップを実践するなど、意欲的に取り組んでいる。

また、マ国では、アフリカ地域を対象とした生活改善研修の帰国研修員の実践を発端として、JICAマダガスカル事務所による支援が2008年から継続的になされている。現地マダガスカル語の教材作成がなされている他、生活改善全国コンテストの実施・協力隊の派遣も行われ、JICAによるフォローアップ調査なども行われている。

これらの状況、およびイフパットがエルサルバドルで展開している草の根技術協力プロジェクトが2024年前半に終了する見込みであることも踏まえて、マダガスカル国アムルニマニア県が「生活改善アプローチを通じた栄養改善」という後継プロジェクトの候補地として選定。2023年4月の理事会承認を経て、6月10日～19日に理事・主任研究員の和田、研究員の積の二人で現地調査を実施した。

以下、出張報告の内容である。

生活改善アプローおよび行動変容の普及状況

●行動変容を促す取り組みとして、有力者を巻き込んだ屋外排泄ゼロの取り組み、物を配るのではなく技術移転に重点を置く、参加者の自主的な取り組みを応援する、画一的ではなく対象地域によって最も有効なアプローチを模索する、といった事例があることを確認。トップダウンの旧来型のアプローチによる不満やそれでは行動変化が起きないという経験から、住民自らが気づき、変化していくというアプローチの重要性については、関係者から賛同が得られる。一方で、知識普及は行うものの、その後の行動変容が行われたのかまでモニタリングやフォローができていない事例もあり、知識普及だけで終わらないプロジェクトへの期待感を確認。

●マダガスカルにおいて、これまで多くの生活改善の事例が積み上がってきており、各種ガイドブックも作成されているなど貴重なリソースがある。一方で、課題発見につながる「現状分析ツール」については重要視されてきておらず、ここを整備することが、考える住民育成につながると思料。イフパットが他プロジェクトで実践してきた内容である。

●生活改善実践者・グループへのインタビューでは、「グループ活動は、力を合わせることでものを作ることができること、意見交換ができることが楽しい。」「皆で協力して生活レベルがあがることが楽しい」「家が貧しく、家族も多かったため、十分に勉強できなかった。だが、生活改善を通じて、新しいことを学ぶこと、それが自分のものになっていくことがとても楽しい」というポジティブな声が聞かれた。

栄養改善にかかる状況

●母子を対象とした栄養改善プロジェクトはこれまで実践されてきている、次世代を担う若年女性への支援を国としても戦略化し始めている状況を踏まえ、若年女性への栄養改善を目指す。エルサルバドルでのプロジェクトでの、青少年を対象とした取り組みが活かせる分野。

●現地の農村状況：栄養改善のために、改善できる生活状況は多数あり。例えば、食事の摂取量・質ともに課題があると国家栄養戦略では分析されているが、今回インタビューした女性の前日の食事は「朝：紅茶・揚げ物、昼:米、おかず(豆 の煮込み、人参、ネギ) 、夜:米、白菜」あるいは「1日を通して米とキャツサバのみしか食していない」と大変質素なものであった。その他、栄養改善に影響を及ぼすトイレや台所の状況など、写真を参照。

写真：トイレの様子。掘立て小屋に穴が掘ってある形。長屋形式で、複数家族でトイレを共有していることも多い

写真：台所の様子。石炭や薪を使って調理。料理は大鍋にて準備。

写真：台所に煙突が設置されているが、機能しておらずに調理時は煙たくなる。

写真：川辺で洗濯している様子。水源は川の水や湧水や井戸から組んでくることが多く、水道の普及率は低い。また、水釜に蓋はなく、簡単にゴミや虫が入りやすい状況。

草の根技術協力プロジェクトへの理解

●カウンターパートとプロジェクトの内容合意。

●プロジェクト形成方法（合意書やミニッツを結ぶ前に、カウンターパートと一緒に関係者への説明や現場視察、住民の状況確認を行うこと）について、現場視察、住民の状況確認を行うこと）について、プロジェクト成功・終了後の持続性のための手法として有用と賛同あり。

以上、調査を通じて、プロジェクトへのニーズがあること、イフパットの知見が活かせるポイントが多くあることが分かった調査であった。2023年度公募への採択を目指し、準備を進めているところである。

パナマの奥地で芽生えた家族の自信

理事・主任研究員　和田彩矢子

「母さんだけが疲れるのは良くない。俺たちも掃除や片づけをできるから、やらない選択肢はない。」

写真：（左からアレハンドロ氏、妻、長男、研修員）夫妻、子ども11人、孫8人、計21人のノベブグレ先住民自治区の大家族の長男(32歳)が研修員に生活改善活動を語る。

茅葺屋根と土床の伝統的家屋の横に、木材を活用した手作りの住居と、政府支援による真新しい住居が併設されており、どれも部屋の中はとても整理されている。一夫多妻制、男尊女卑が強い、支援慣れの住民が多く活動が難しい、と行政官が嘆いてきたノベブクレ先住民自治区。生活改善アプローチの帰国研修員であるMIDA（農業開発省）の普及員達の献身的な寄り添い活動により、着実に家族の団結力が増し、主体的に考え行動する習慣が根付いた様子だ。

生後12日目の小さな赤ちゃんを抱く女性も含め緊張した面持ちで子供達が無言で見守る中、家長のアレハンドロ氏が現地語で語り長男がスペイン語に訳す。(名前はスペイン語と現地語名の二つを

有す。現地語名は”優秀な人材”を意味するニジゴ氏。)『生活改善を実践して、下痢や風邪も減ったと体感してる。今までは床に寝ていたから夜寒かった。だけどベッドで寝て、整理整頓して掃除もして伝統的な薬草も再度着目して飲み始めた。コロナ禍でも3種の薬草を飲んでたから皆問題なかった。今までは野菜も家の中の土の上に乱雑に置いていた。結構ダメになるのも多くて無駄にしていたと気付いた。MIDAの普及員の生活改善のオリエンテーションのあと、こうして棚を手作りして野菜が痛まないように

写真：三ツ石で地べたでの調理から、台へ改善。改良かまどのように閉ざされていないため茅葺天井はススで真っ黒だが、冷蔵庫がないので野菜の保存には天井部分がちょうど良い。奥には改善された野菜棚に沢山の野菜

工夫してる。孫たちも好き嫌いなく野菜を何でも食べる。トイレも見てほしい。手作りをしたんだ。』

赤土で手作りされたトイレはふたをつける工夫で臭いもない。政府支援の家にもピカピカのトイレが室内に設置されている。ただ水がないから使っていないという。トイレはもっぱら手作りの愛着ある方を使う。

写真：生活改善を学んで手作りをした蓋つきトイレ。蛇口も設置した

写真：手作りの家と家屋周りに植えた家庭菜園／アレハンドロ氏宅

家の壁に沿って植えた家庭菜園とは別に、売るための野菜の畑は徒歩3時間のところにある。一度行ったら4～5日は戻らず畑の近くにある小屋で過ごす。「昔の暮らしで一番大変だったことは常に何時間も土道を歩いて仕事や学校や町に出なければいけなかった事。とても身体がきつかった。」6年前に道路舗装され、雨でも車で行き来できるようになった。山の尾根に沿う道は急こう配でジェットコースターのようで雲の近くまで続く。遠く海も見える。土道の時代は相当苦労しただろうと隊員時代の類似状況を思い出しながら想像する。

最後に今後五年の目標を父さんに尋ねると「学校に行きたい。学校でスペイン語を勉強したい。」と語った。「自分は小さい頃父親がひどい風邪で亡くなって孤児だった。妻も同じで子供の頃両親を亡くして孤児。妻とは同じ地域出身で、青年期に出会って互いに支え合ってきた仲。だから今、家族を一番大事に思ってる。家族のために、思いついたことは全部やってみている。生活改善を知ったおかげで自分で出来るという事に気付いた。綺麗になった庭や沢山並んだ野菜をみて、近所の人が声をかけてくると、生活改善の事を人に話して広めている。もっと広めたい。スペイン語を勉強すればもっと世界が広がると思う」

この集落に生活改善を共有したのはMIDAのマガリ・サンドバル帰国研修員(2016年度)。「最初住民は研修だけと聞いて皆冷ややかな対応で、うまくいくとは思えなかった。でも常に、小さくても達成できる活動を勧めてきた。命じる事はせず、こうするのが良いかも、と話して促す事に徹してきた。そうすると住民

側からアイデアが出て、じゃあ次回訪問する時に一緒に作ろう、と約束する。次回着くと、自分達でやってみたよと既に解決していた。頼もしいのよ」

自身もノベブグレ自治区出身で地元の地域開発に貢献したいという意欲の高いハビエル・ソンソMIDA職員（帰国研修員)は今なお定期的に家庭訪問を行う。「今回在外補完研修がここで実施されてノベブグレの家族が直接皆に体験を語ってくれて本当に嬉しい。今回アレハンドロの小さい子どもが火おこし石で、火をおこしてくれたよね。自分も父親や祖父から石の話しは聞いていたけど実際見たのは初めてで感激したよ。何回来ても毎回新しい学びが普及員にもある。だから楽しい。」ソンソは笑顔で語る。

写真：滑らないようにと手作りの玄関アプローチ：タイヤの階段と木の手すり

高層ビルが乱立するパナマシティから1時間の距離の村の家も、水がない。シティから2時間の村は、水も電気もきていない。だけど嘆いてはいない。やまがちな集落の若い母さんは妊娠中、自宅の敷地内で玄関に続くぬかるんだ斜面で滑って転んだ。生活改善を学んで、自分でタイヤの階段と木のてすりを作った。

組織化して、あははと笑って楽しく生きている。お金がなくてもできることがたくさんあるのよ！と笑顔で語る母さんたち。

パナマの個人、家族、集落、組織レベルの生活改善事例を見聞きし、研修員達は自国でのアクションプランがより明確化したと語った。来日研修では「女性のエンパワーメント」という言葉を使う研修員に、片方をエンパワーすると対立が生まれるのでエルサルバドルでは「家族の協調、調和」と言った言葉を使っていると教授が助言。今回ノベブグレ自治区でまさに、若年男性も含めた家族への生活改善共有により、対立する事なく女性の地位向上、労働軽減ができた事例を目の当たりにした。パナマの学びを参考に12カ国14名の研修員の活動により、自信をつけ主体的に改善を続ける家族が増える事を期待する。

写真：十五夜のパナマシティにて（ジェットラグで深夜のお月見）

（2023年度課題別研修「中南米地域　生活改善アプローチ持続的農村開発のための普及手法の適用と普及員育成」のパナマにおける在外補完研修から）

NPO便り第33号に寄せて

編集文責：永井　和夫

NPOイフパットのメイン活動は、現在JICA草の根技術協力の実施と、やはりJICAの研修事業の受託です。今回報告した３題、ベトナムは現在実施中の草の根技術協力関連、パナマはJICA研修コースの海外補完研修の話、そして現在情報収集を図り、鋭意案件形成に取り込んでいるマダガスカル草の根技術協力案件の話です。

国際協力の事業実施を通じて、活動の周辺から非常に興味深いそして貴重な情報を得ることができ、また人生の示唆を受けることが良くあるといつも感心させられます。今回の報告にもなるほど！、そうか！がたくさんありました。

「イフパットだより」に関する照会・連絡先
NPO法人国際農民参加型技術ネットワーク（イフパット）
〒300-1241 茨城県つくば市牧園5-13-203
TEL：029-875-4771　E-mail: info@npoifpat.com
ホームページ:http://npoifpat.com/